
釣り方について考える (2017/9/5~2021/1/13の釣り日記からのまとめ)

誘い

- 表層にいないことと、宙層やや深場ということから、深場やボトムを試すことにした。モカDR2フック(SS)Nアオミドログローを着水後カウント10まで待つ。「4回巻いてカウント4まで待つ」を繰り返す。リトリーブは超ゆっくり。これで2尾ゲット。着水後カウント15のときもあった。(着底しているかどうかは、スローシンキングなので分からない。) モカSR2フック(SS)ミドビィーノでも、同様に釣った。止めているときか、動き出しでヒット(&ゲット)した。(2017/11/12)
- モカをゆっくり巻いてくると沈んでいく。ぎゅーと水面近くまで持ち上げて、再びリトリーブするとマスがよってきたり、ヒット(&ゲット)したりした。(2018/4/1)
- 「ルアーのすぐ後ろにマスがついたときは、少し速くスピードで撒き続ける」とヒットするというパターンができた。(2018/4/1)
- モカを使って竿先を頭または頭の上にするによって、表層を速く泳がせることができた。これにより、マスを後ろにつかせたら、更に速く巻くことでヒットさせるというパターンができた。(2018/4/1)
- マスの活性があまり高くない。マスが後ろにつくが距離が長い。マスが後ろについたとき、スピードを上げていくと離れてしまう。(2018/5/27)
- マスが後ろについたとき、スピードを上げていくと離れてしまう時があった。(2018/6/2)
- モカSR(SS)をゆっくり巻いて沈めていく。マスが興味を示したら一定層を泳ぐように巻き始める。これで複数尾釣った。(2018/6/2)
- モカSR(SS)をゆっくり引いてくると、沈んでいく。竿先を持ち上げてモカを上の方まで引き上げてくる。すると、マスが興味を示す。再びゆっくり巻く。(2018/6/9)
- ちびパニクラDR-SSを2~3回巻いて潜らせる。ゆっくり巻く。当たらなければ、少し早く半~1周巻く。するとマスが興味を示す。再びゆっくり巻く。(2018/6/9)
- スプーンはフリップして、クランクは少し早巻きして、マスの注目を集める。
活性が高いときはルアーの後ろにマスがついたら、巻きスピードを少し早くする。
活性が低いときはそのまま巻き続ける。(2018/8/19)
- モカSR2フック(SS)ミドビィーノ 数尾
着水後、すぐに巻く。巻きスピードは泳ぐ一番遅いスピードである。8回巻いたら、竿を立てる。ミドビィーノの色が見えてくるまで竿を立てる。竿を立ててくると、ぶるぶるとルアーの振動を感じる。ミドビィーノの色が見えてきたら、竿を立てるのを止めてリトリーブを始める。
8回巻くとルアーが潜っていく。竿を立てると、ルアーが急速に上がってくる。これが、誘いとなるようだ。この後も時々、これを試みた。釣れることがあった。以前もこのパターンで釣った。一つのパターンができた。(2019/4/8)
- ボトムの釣りをしていたとき、巻きフォールのように若干巻きながら落としたりと、着底と同時くらいにヒット(&ゲット)した。(2019/4/8)
 - ・ペンタ1.3g 薄茶 (フロントにフックをセットした) 2尾
- ちびパニクラDR-SS タッキーブラウンを巻いていた。釣れないので、ミドビィーノと同じように竿を立てた。竿をグーと立てたときにヒット(&ゲット)した。(2019/4/8)
 - ・ちびパニクラDR-SS タッキーブラウン 2~3尾
- 着水後すぐに8回巻いて潜らせ、その後、竿先を顔の高さまで持ち上げてくるというパターンで釣れた。持ち上げてきたらヒット(&ゲット)。持ち上げてきて2回巻いたらヒット(&ゲット)。(2019/5/7)
- 次の時にもヒット(&ゲット)した。(2019/5/7)

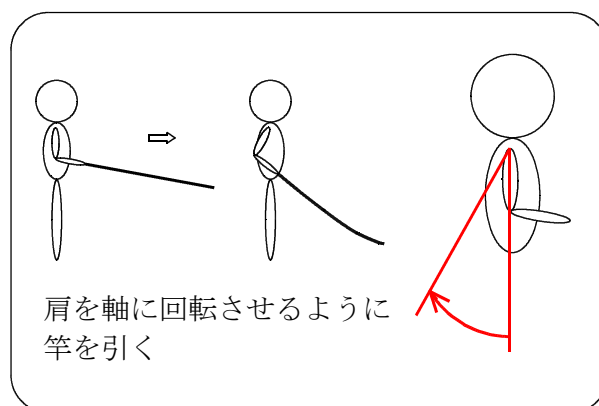
竿先を水面上でゆっくりリトリブ
スローシンキングでカウント10からのリトリブ
フローティングで5回巻いて潜らせ、そのままゆっくりリトリブ／

○トップやボトムの当たりが止まったとき、釣れたルアーを試した。2尾釣った。(2019/6/18)

【釣り方】 ー釣れたときの再現性を高めるー (2020/1/26)

<空合わせが誘いとなる>

- 前回、初美に合わせ方を教えていた時、空合わせを入れた途端にヒット(&ゲット)した。
- 意図的に空合わせを誘いとして入れてみたところ、ヒット(&ゲット)した。
- 今回も1度だけがヒット(&ゲット)した。
- これまで Spoon をピックアップする時は、竿を立ててしていた。竿を上げずに早巻きしてからピックアップしようとしたところ、ヒット(&ゲット)した。これも誘いの一つとして使えそうだ。



<魚の反応を見て対応するとは、>

(2020/6/2)

- ルアーを投げてゆっくり巻いてくる。するとマスが後からついてくる。マスがルアーとの距離を縮めてきたら、巻きスピードを上げる。すると、さらに距離が縮まったり、口を使ったりする。
- マスが見切って離れてしまうときは、巻きスピードを落とす。しばらく巻いていると他のマスが近づいてくる。ルアーにマスが興味を示さないようならフリップを入れてアピールする。
- 足下にはマスが貯まっているので、ルアーが足下まで来たら、そのまま沈める。魚が反応して、近づいてきたり、口を使ったりする。
- これで掛からなければ、投げ直す。
- 以前に空合わせしたら、それが誘いとなり、釣れたことがあったので試してみた。一度だけヒット(&ゲット)した。

誘い

○プチモカSR(SS)の使い方 (2020/10/7)

- ゆっくり巻く(「ゆっくり、ゆっくり」と唱えながら巻く。「ゆっくり、ゆっくり」でリールハンドル1回転)。これでプチモカSR(SS)は沈んでいく。当たりがなければ、竿をグイーと立ててプラグを表層まで持ち上げてくる。それからリトリブする。持ち上げることで、泳層を棚まで戻すことができる。また、これが誘いとなる。棚を泳いでいるときに誘いをかけたいときは、竿を水平に引っ張ってくる。上に上げるときも水平に引くときも、引っ張った後の巻き始めにヒットすることが多い。
- プチモカSR(SS)が一定層を泳がせたときに釣れたときもあった。この時の巻きスピードはやや速めである。ミドピーノなら一定層を泳ぐのを確認しながら巻くことができる。
 - カウント5~8でミドピーノの色が見えなくなる。今日はこの深さでは深すぎだった。ミドピーノの色が見え

なくなったら、引き上げて誘いを掛けるという感じであった。

○表層上部で釣れなくなったとき、カウント5で連続して釣れたこともあった。